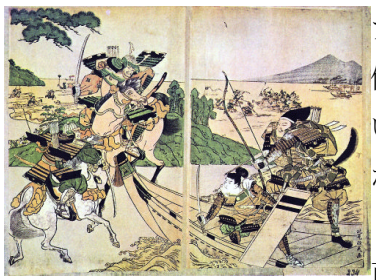
五家荘の平家落人伝説

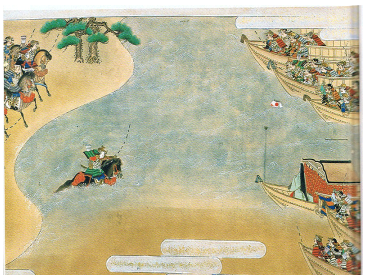
平家の里　高木　出さん講話

私たちが住む五家荘は、日本全国でも平家落人伝説でとても有名なところです。その伝説の魅力に惹かれて一年中多くの観光客が五家荘を訪れています。

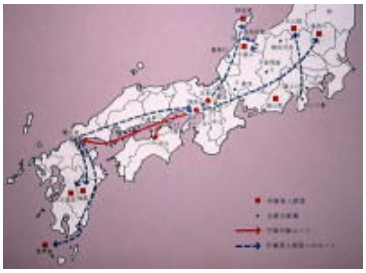
ずっと昔のこと、平清盛で代表される平の親戚グループつまり平家は、平安時代に全国の政治の中心で活躍していました。京都で贅沢三昧の暮らしを永く続けていました。それに比べて平家ではない人達の暮らしは苦しい日が続きました。そこで、源義経で代表される源の親戚グループつまり源氏が、平家を倒そうと立ち上がり、戦いが始まりました。勢いが強い源氏に押されながら平家は、京都を追われ西へと逃げました。四国の屋島での戦いの時、平家軍の舟に玉虫の前という名前の美しい女が突然現れ、竿先の扇の的を弓で当ててみろと挑発したのです。万一、外したならば源氏の恥となり切腹しなければなりません。みんなが辞退する中で那須与一（なすのよいち）が引き受けることになりました。

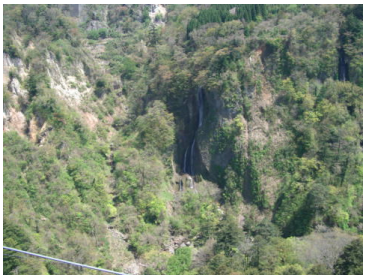


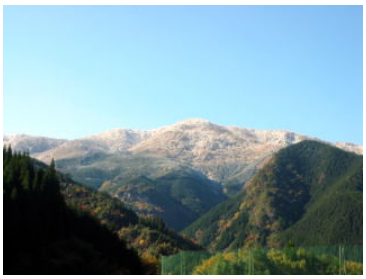
「絵本 平家物語」那須与一



那須与一は、海に馬を乗り入れると弓を構えて矢を放ち、その矢は見事に舟の上の扇に命中したのです。その戦いでも平家は破れてしまい山口県へ逃げましたが、とうとう壇ノ浦の合戦で滅びてしまいました。ところが、戦いに敗れた平家の一部は、全滅したように見せかけて平家の命を絶やすまいと全国の人里離れた山の奥地に逃げ、隠れ住んだのです。平清経も５人のけらいと一緒に四国に逃れ、その後、九州の大分へと渡り源氏の追っ手がこれないような山の奥の奥へと逃げて一番安全と思われた五家荘の白鳥山に住み着きました。







その頃、平家を壇ノ浦の戦いで全滅させたと思っていた源氏のグループの大将である源頼朝に、平家の生き残った人つまり落人が、全国の山奥深く逃げ込んでいるという情報が入りました。そこで源頼朝は平家が生き延びて反撃することがないよう平家を全員殺してしまえと命令を出したのです。五家荘にも落人がいるという情報があったの

で四国の屋島の戦いで弓を討ったあの那須与一の子ども・小太郎宗治を送り込みました。

小太郎は家来を連れて平家の後を追い、砥用から五家荘の手前の岩奥にさしかかりました。すると、目の前に美しい女性が現れ、「こんな険しい山です。この先に誰一人住んではおりませんよ。」

と優しく語りかけたのは、何の因縁でしょうか、あの平家の舟の上の扇を討ってみよと言った美人・玉虫の前だったのです。弟の久茂（くも）と

共に生き延び鬼山御前（おにやまごぜん）と名前を変え、平清経たちが住む五家荘へ源氏を行かせないようにしていたのです。小太郎達は、美しい鬼山御前の話を聞き入れ、しばらく様子をみようと岩奥に留まることにしました。そのうちに鬼山御前の美しさと優しさに惹かれて二人に愛が芽生え、鬼山御前が平家であることを承知で結婚し、末永く幸せに暮らしました。二人は、多くの子供に恵まれ、鬼山御前は、とてもお乳の出がよく、近所の子どもたちにも乳を与えていたことから、乳の神様として八代市泉町の保口若宮神社にまつられ、鬼山御前が小太郎に声をかけた所には石像があります。

五家荘は鬼山御前のお陰で平和な毎日が続きました。それから平清経の４代目の子孫である緒方紀四郎盛行が「椎原しいばる」に住み着いて椎原を支配し、弟の近盛は久連子（くれこ）を

そして実明は葉木（はぎ）を支配しました。

久連子地区では、とても優雅に暮らしていた京都での生活を思いながら踊った「久連子古代踊り」が今でも引き継がれています。

なお、この伝説については、平家の里資料館に詳しい資料が展示されていますので、調べてみてください。